

# 吉田統括監だより

## 第1号

**Q** 地方創生とはいったい何でしょう？

**A** 町民が自らの未来を決め、町民が町の未来を切り開くために行政とともに積極的に活動を行う『状況』のことだと確信します。

町民の皆様こんにちは。地方創生担当統括監の吉田です。梅雨目前の蒸し暑い日々が続きますが、いかがお過ごしでしょうか？

体調など崩されぬようご自愛くださいませ。

さて、着任後1か月が経過しましたが、『南国』独特の特徴に驚きの毎日で大変刺激的です。

秋田県から鹿児島県まで様々な地域で暮らし、人々とふれあうことで、日本の多様性のすばらしさに改めて感動しています。外国人旅行者がとみに

増加している昨今、彼らが日本に魅了される理由が『多様性』であることも理解できます。

そんな世界に類を見ない『多様性を有する魅力的』な国である日本が『危機的状況』を今後迎えるであろうと言われています。

それが、いわゆる人口減少・少子高齢化に伴う、『過疎化』なのです。

単に人口が減る、あるいは高齢者が増えるという現象では済まない『過疎化』については、近代日本にとって初めての状

況であり、しかも、過疎の進行状況が地域によって多種多様なのです。

よって過疎対策だけは、明治維新以降続けられてきた『中央集権』的発想では、解決できない問題であり、各地の総力を結集した積極的な活動が重要なのです。

錦江町でも、全国的な流れである、もはや避けられない『過疎化』を直視し、生活スタイル、地域の在り方をどのように捉え、再構築するかが問われているのです。

幸い、錦江町については、人口減少以外については、まだ危険水域ではありません。だからこそ今のうちに出来ることを考え、手を尽くす必要があるのです。

その為に、何より必要

なことは、物理的・財政的に制限された状況下で、現実を見据えながら、『町民が町の未来を行政とともに決め、町の未来を切り開くために行政とともに積極的に活動すること』なのです。その伴走役として、私もがいますのです。

このたび南日本新聞などで報道された『百人委員会の設置』はまさに、このような理念に沿った手法で、既に鳥取県智頭町で10年以上前から導入され、効果を上げている政策です。

過疎化対策は様々な方法が導入されていますが、活性化が順調な地域の共通項は、『特定の誰かによる活動』はもちろんのこと、『老若男女・様々な立場・職種・考え方の町民による意思決定の仕組みによる参画型活動とそれらを受け入れる行政や町民の柔軟性と多様性』に

あります。

『百人委員会』は町民の皆様への『町への思い』を行政とともに実現する場とさせていただきます。

町民の皆様への『町への思い』を、町民の皆様とともに実現化するために、地方創生担当統括監が存在することをご理解くださいますようお願いいたします。

なお、『百人委員会』概要は次ページの通りですが、詳細は11月号でお知らせする予定です。

